

きょうだいが育つ家族の QOL に関する研究

－「日本版 FQOL Scale」による家族 QOL 得点の分析－

○阿部美穂子

小林保子

（山梨県立大学看護学部）

（鎌倉女子大学児童学部）

KEY WORDS: きょうだい 家族 QOL 家族支援

1 目的

障害のある子ども（以下、同胞）の兄弟姉妹（以下、きょうだい）特有の悩みや課題は、きょうだいが育つ家族状況の影響を受ける（阿部，2019）。よって、家族全体を視野に入れ、ニーズを把握し、支援の方向性を探る必要がある。本研究では、きょうだいが育つ家族の生活の質（以下、きょうだい家族 QOL）が、きょうだいの心理的安定と発達保障に関連するとする仮説に基づき、以下の点から質問紙調査結果を分析し、きょうだいとその家族への支援の基礎的知見を得ることを目的とする。

- 【目的 1】きょうだい家族 QOL を構成する共通因子を探る。
【目的 2】同胞の障害種、きょうだいの年齢・出生順の属性と、きょうだい家族 QOL との関連性を探る。

2 方法

(1) 質問紙

「日本版 FQOL Scale」（小林・阿部・藤井，2016）を用いた。The Beach Center FQOL Scale（2012）の邦訳版で、5 件法 25 項目からなる。原版は 5 下位尺度構成だが、日本版では、「家族内環境要因」15 項目と「家族外環境要因」10 項目の 2 因子構造となり、前者に主に原版の「家族相互関係」「子育て」「精神的健康」、後者に「身体的・物的健康」「障害関連サポート」を含む。妥当性と信頼性を確認済みである。

(2) 調査対象・調査期間

特別支援学校等、障害児・者関連機関全国 30 か所に所属する親を対象に 201×年 9 月～+1 年 3 月に調査した。

(3) 分析方法

同胞（複数の場合は最年長者）の障害種により、単一身体障害（以下、PD 群）、知的障害（ID 群）、重度・重複障害（SMID 群）、知的障害を併有しない発達障害（DD 群）の 4 群、各家族の最年長きょうだいの年齢と出生順に基づき、幼（0～6 歳）群・小（7～12 歳）群・中高（13～18 歳）群・成人（19 歳以上）群の 4 群、及び、兄・姉・弟・妹の 4 群に分け、日本版 FQOL Scale の 2 下位尺度得点を単純比較した。引き続き、2 因子構造要因と「障害種」「年齢」「出生順」の属性をそれぞれペアにして独立変数とし、下位尺度得点を従属変数として、3 種類の 2 要因分散分析（混合計画）を行い、家族 QOL における各要因と下位尺度得点との関係について検討した。統計的分析には、エクセル統計 2016 を使用した。

(4) 倫理的配慮

質問紙を所属先に配送し、研究の趣旨、個人情報保護方法及び学会発表等におけるデータ使用等を文書で説明し、きょうだいがいる家族で、同意する者のみが回答するよう求め、匿名個別回収した。返送により同意を得られたと判断した。

3 結果と考察

(1) 質問紙回答回収状況

配布数 1981 中、回収数 751（回収率 37.9%）で、回答に不備があるものと質問紙が規定する対象年齢外のものを除いた有効回答数は 606（回収中 80.7%）であった。これを基本データとし、分析目的に応じて Face 項目に欠損があるものを除いたデータを対象とした。回答者の内訳は、障害種別では、PD 群 61、ID 群 268、SMID 群 189、DD 群 78、年齢別では、幼群 115、小群 187、中高群 186、成人群 114、出生順別では、兄群 188、姉群 191、弟群 129、妹群 98 であった。

(2) 【目的 1】について

基本データを対象に因子分析（主因子法、プロマックス回転）を実施したところ、小林・阿部・藤井（前出）と同じ 2 因子構造が得られた。そこで、詳細な構造を探るため、さらに 2 下位尺度別に因子分析を実施したところ、表 1 に示す 2 層構造が示された。第 2 層の「家族相互関係」には、原版尺度項目に加え、原版の「子育て」尺度における「私の家族が、子どもに人と仲良くできるよう教える」等、子育て上の親子関係を示す 2 項目が含まれた。同様に「精神的健康」にも、原版尺度項目に加え、「子育て」尺度から「私の家族の大人が、子ども一人ひとりの個別のニーズに応じる時間がある」等、親が子どもの精神状態を支える 4 項目が含まれた。

以上より、日本の障害児家族では、「子育て」に特化した要因が明確化されないことが示唆された。これは、障害のある子どもの育成を最優先関心事としがちな家族の日常において、「子育て」は、障害児家族にとって、「家族内環境要因」全体に関連する前提要因であり、個別に抽出されるものとはならないためと考察される。ここに含まれるであろう、きょうだいの「子育て」要因と家族 QOL との関係性については、親のきょうだい育ての評価と併せ、さらなる検討を要する。

表 1 きょうだい家族 QOL の因子構造

家族内環境要因	家族相互関係	(7項目)	$\alpha=0.92$
	精神的健康	(8項目)	$\alpha=0.88$
家族外環境要因	身体的・物的健康	(6項目)	$\alpha=0.82$
	障害関連サポート	(4項目)	$\alpha=0.84$
因子間相関 0.54		上2尺度相関0.69、下2尺度相関0.63	

(3) 【目的 2】について

3 種類の 2 要因分散分析の結果、いずれも交互作用は見られず、因子構造要因と障害種要因の主効果のみが確認された。有意差が見られた検討結果を抽出し、表 2 に示す。下位尺度間比較では、「障害種」「年齢」「出生順」にかかわらず、「家族内環境要因」得点が「家族外環境要因」得点より有意に低く（ $p<.001$ ）、これらの外的属性に依らず、家族内の様々な要因がきょうだい家族 QOL の質に関連する可能性が示唆された。一方、障害種間比較では、多重比較の結果、SMID 群の尺度得点が ID 群を下回り（ $p<.05$ ）、日常的な介護を要する SMID 群の特性が関係していると推測された。

表 2 2 要因分散分析の結果（有意差が見られた結果のみ）

		家族内環境要因		家族外環境要因		ANOVA
		n	平均	SD	平均	SD
障害種	PD	61	3.45	0.80	3.51	0.66
	ID	268	3.50	0.69	3.65	0.60
	SMID	189	3.37	0.67	3.46	0.68
	DD	78	3.46	0.73	3.59	0.65
t検定		家族内環境要因<家族外環境要因, $t(605)=4.75$, $p<.001$				

(ABE Mihoko, KOBAYASHI Yasuko)

※本研究は科研費基盤研究(C)16K04803「障害のある子どものきょうだいと親がともに生きる支援プログラムの開発」の補助による。